

2014 2/25

No.1965

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



バハマ船籍の豪華客船「クリスタル・セレニティ」(6万8870ト)が9日正午すぎ、前日降った雪が残る横浜港に入港した。横浜港へは5年ぶり3回目の寄港。同船は、全長250メートル、乗客定員1070人。90日間のワールドクルーズの途中で、11日午後10時に次港へ向けて出港した



# 政経かながわ

## contents

視点・点描	3
「奇襲」でなく「王道」歩め	
政治	4
成長戦略、正念場に 焦点は法人税と規制緩和	
経済	6
観光で経済成長けん引 訪日客増へ国内旅行充実を	
経済	8
米航空業界で3強の競争激化 上級客、アジア強化に活路	
経済反射鏡	10
アベノミクスに注意信号 米中、金融政策を大転換	
海外都市事情	11
企業最前線	12
「攻めの農業」で競争力強化 IT、GPSなど活用	
くらし2014	14
広がるNPOの放課後事業	
広告珍談	16
新聞広告が始まった④ 効果あった広告	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18

### 事務局だより

#### ◇横浜定例講演会

2014年3月4日(火)

富士ゼロックス神奈川株式会社と共催

ホテル、ニューグランド「レインボーボールルーム」

▽基調講演 15時～16時。

講師は日本銀行横浜支店長の竹澤 秀樹氏、演題は「最近の金融経済情勢について」

▽特別講演 16時10分～17時40分。講師は東海大学副学長、神奈川県体育協会会長の山下 泰裕氏、演題は「人を育てる、人に育てられるー柔道を通して学んだこれからの生き方ー」

▽懇親会「神奈川情報交流会」17時50分～19時30分、「ペリー来航の間」

# 視点 点描



## 「奇襲」でなく「王道」歩め

看板施策の実現が進まないことに対する、焦りといら立ちを感じさせられた。

大阪市の橋下徹市長が「大阪都構想」の是非を問うため、市長を辞職し、自ら再出馬する意向を表明。3月に出直し市長選が行われることになった。強力なリーダーシップと発信力で人気を集める橋下氏だが、今回の手法は勇み足のように思える。

異例の事態となった発端は、1月31日に開かれた都構想の制度決定を進める大阪府と市の法定協議会。新設する特別区の区割り案絞り込みが、大阪維新以外の会派の反対で退けられたのだ。これに橋下氏が「このままでは移行が遅れるだけ」として反発。「信を問う」と表明に至った。

しかし、協議会では区割り案の絞り込みに「ノー」が突きつけら

れたにすぎず、都構想そのものが否定されたわけではない。それなのに、市民生活と密接に関わる2014年度予算案を決める重要な時期にもかかわらず、「劇場型選挙」に走ることは市政の停滞を招きかねず、民意のお墨付きを得ることにつながるとはどう言い難い。

市長選に勝利しても、橋下氏の任期は現在の残りの15年12月まで。大阪府議会、市議会とも維新は単独過半数を占めておらず、勢力図がすぐ変わるわけではない。

出直し市長選には、国会議員も関心を寄せている。河野太郎衆院議員（神奈川15区）は、地方自治体が市長と市議会の二元代表制であり、議会の構成、意向を変えなければ構想が実現しないことを強調。「私も神奈川出身で、政令指定都市と県との二重行政の問題に

直面している。橋下氏に共感するところも多い。しかし、今回のように議会が動かないからといって、再選挙の道は取るべきでない」と話している。

二重行政の解消などで、橋下氏の考えを支持する市民からも「独り相撲に終わる」と理解されない恐れがあるのではないかと。求心力の低下が懸念される。

地方議員は民意に敏感である。大阪都構想に対する市民の賛同がもつともっと高まっていれば、議会も賛同せざるを得ないはずだ。

橋下氏には、今回のような「奇襲」ではなく、二元代表制の「王道」を歩み、あわてずに議論を尽くし、構想に対する市民の幅広い支持を得て、議会を納得させるよう努めてほしい。

（神奈川新聞社経済部長

石曾根 剛）

# 効果あつた広告

親しいアメリカ人セービン氏は、

は、みごとに日本語をあやつる。

隣家のイタリア人サリス氏は、

日本文学の研究者でみごとな漢字

を書く。ある日、彼が書いたメモ

にボクが書く羽目になった。その

貧弱なこと、情けなくなつた。

かつて横浜の居留地に住む外国

人は、日本語の新聞に日本語で広

告をだした。1867(慶応3)

年1月、イギリス人宣教師ペイ

リーが日本語で発刊した《万国新

聞紙》に、日本人を対象とする広

告が多数、掲載された。

山手に住むイギリス人スメッス

は、ブタのイラスト入りで

「私方ニ英吉利産の豚二匹」が

います。ブタを持ってくれば、交

配してあげます。

発行するペイリーも広告を出

した。

「外国人之横浜ニ住居致者、此

後日増二繁

昌可致二

付、日本人

アメリカ並

ニエウロッ

パ之野菜物

を作り候得

は、多分之

利可有之、

若又土地・

気候宜敷、

野菜物不案

内……」

近ごろ、横浜に住む欧米人が増

えて、西洋野菜を栽培すればきつ

と喜ばれるだろう。私の農園でそ

の栽培法を伝授しますと。

下図は5号の広告、ところが広

告という用語はまだなく、「報告」といった。右下から、「口中一切療治仕候」と、居留地の歯科医が日本人の患者もいらつしやいと。その左上は

「私店に外国の衣服書物筆紙墨



の類、其外色々品物何に寄らず商

売仕候」。さらに左は

「アメリカに学問修業交易又は

見物遊歴二渡海被成度者は随分御

世話申候」と、海外旅行を斡旋す

るアメリカ人リード。のちに総理

大臣になる高橋是清は、この広告を読んで渡米した。ところが支払った渡航費はリードが着服、アメリカ本土で「転売」され、奴隷のような苦勞をしたという。岸田吟香と《横浜もしほ草》を発刊(1962号参照)したリードは

悪人であつた。左端は「私店に羅

紗外国人衣類沓皮之類」、ライフ

ル銃やピストルまで取り揃えてい

る。もし希望の品がなければ直ち

に米国から取り寄せるとマークス。

こうした広告主の外国語をだれ

が訳したのだろう。《万国新聞紙》

を発刊したペイリーのもとに、す

ぐれたスタッフがいた。のちに国

語辞書「言海」を完成した文学博

士・大槻文彦。朝日新聞のルーツ

である新聞「自由灯」を創刊した

政治家・星亨である。文章も文字

もむつかしい。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)

(図)万国新聞の「報告」。186

7(慶応3)年掲載